2015年（平成27年）4月11日（土曜日）　下野新聞

観光、ブランド創造の拠点

地場品積極掘り起こし

栃木市

「コエド市場」27日オープン

【栃木】鈴木俊美市長は10日の定例記者会見で、市中心部に整備中の市観光情報物産館を27日にオープンすると発表した。物販スペースの愛称は、「市アンテナショップまちの駅『コエド市場』」に決定。特産品を販売するだけでなく、地場商品の掘り起こしなど新たな栃木市ブランド創造の総合拠点としたい考えだ。市のアンテナショップ開設は初めて。

（石崎倫子）

27日にオープンする市観光情報物産館

同館は倭町の東武ギフトサロン栃木店跡を活用。地元特産品のPR、中心市街地のにぎわい創出を図ろうと、2014年9月から整備を進めてきた。ことし11月からはコミュニティーFMのサテライトスタジオとしても使用される予定。

コエド市場は、宇都宮市の「道の駅うつのみや ろまんちっく村」を手掛けるファーマーズ・フォレストが運営する。委託料は年間450万円。店舗面積は約320平方㍍。

市内の特産品を集めた「とちぎ小江戸ブランド」62点すべてを紹介するほか、地元農産物、パンやジェラートなど軽飲食も提供。「まちの駅」に登録し、新たな観光・交流の拠点として有効活用する。さらに掘り起こしによる地場商品の積極導入、ブランド品の開拓、6次産業化商品の開発なども行い、販売戦略の拠点化を図る。

ショップのオープンは27日午前10時。初日は地元農家が作った紅白もちを無料配布するほか、5月6日までフェアを開催する。

鈴木市長は「栃木市ゆかりの品が一堂にそろう。観光客、市民、生産者の拠点とし、中心部の活性化を図れれば」と期待を表した。